

きのこピー

特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO 広報誌

2017. 5. 1. 発行



第 40 号
特定非営利活動法人 きのくに子ども NPO
640-8401
和歌山市福島 4 8 7 ルミノーズふりい1C
Tel.Fax : 0 7 3 - 4 5 2 - 7 7 1 0
E-mail : kinokuni.kodomo@nifty.com
<http://kinokunikodomo.d.dojo.jp/>

子どもみんなの成長を みんなで見守りあえた!!

私ははじめ、もりもりキッズ（以下もりもり）では、自然の中で、思いっきり遊ばせることが目的でした。
実際、想像以上の自然の中で、五感を使った経験を経ることができました。そして、それ以外にも大切なことを学ぶことができたのです。

自主保育の会
もりもりキッズに
参加して～



私たち親子がもりもりに入った頃、一つ一つ上のお兄ちゃんお姉ちゃんが、息子に声をかけてくれ、引っ張ってくれて、いっぱい遊んでくれました。先輩ママたちも、息子と一緒に遊んでくれました。それにより、息子は、「○○ちゃん」「○○くん」「○○ちゃんママ」とお兄ちゃんお姉ちゃんやそのママたちの顔と名前を覚えてきました。私はその時、我が子に遊んであげられるのは家族だけではない、と実感しました。私が先輩ママたちを頼ると、息子も他人を頼ることができるようになってきました。集団の中で子ども同士の間わりや、その中で自分の子どもとの関わり方、他の子どもたちのことも見守ることなど、もりもりの目的を理解することができ、新しい発見もたくさんありました。

もりもりに入っている他の皆さんも色々と感じられたことでしょう。

ベタリ、抱っこ...で、大変な思いをしながら、毎回頑張って参加していたママ。ゆっくりと慎重に行動する子どもに、根気よく付き合っていたママ。

子ども目線で、子ども達と本気で遊んでくれたママ。そんなママたちに支えられながら、今期のもりもりは成り立っていたのだと思います。

ママたちが、もりもりのママたちを信頼してくれていたから、子どもたちもみんなを信頼することができ、安心して遊ぶことができていたのだと思います。

みんなの成長をみんなで見守ることができた環境に感謝しています。

（高橋明子）

3月もりもりキッズ、森のようちえん合同交流会↓



もりもりキッズ★参加者募集

自然の中で季節を感じながら、身体と頭を使って思い切り遊ぶ自主保育の会

★対象 1才～就園前の親子（きのくに子どもNPO会員対象）

★月4～5回 9：30～11：30

★場所 にこにこのうえん（府中）、河西緑地公園（松江）、他

★会費 月額 300円

「笑顔」 アン卒業文集より

最初は一学年上のお兄ちゃん、お姉ちゃんに圧倒されて泣く事も多々ありました。私自身も慣れず子どもが迷惑をかけないようにと押さえつけ帰る頃には私も子どももくたくた……。行くのが憂鬱になることが多かったです。

先輩ママに話を聞いたり、同じ学年のママと話す事ですこしずつ私が慣れてきました。そうすると不思議と子どもも楽しめているなと思える日が出てきました。三歳になる少し前は本当に毎日しんどくて泣く日々も多かったです。出来ない子どもにあたって怒ることも多くなってきて精神的にも体力的にもきつかったです。

その時、先生やママたちが私の異変に気付いてくれて声をかけてくれました。思っていることを全てはき出し楽になりました。子どもだけではなく私にまで気にかけてくれることが本当に嬉しかったです。その時から考え方や子どもに対する対応も変わってきたと思います。やっとこのときから子どもと向き合えたように思います。子どももアンへ行くのが楽しみで今日はお友達誰が来るかな？と毎日行きの車で聞いてきます。今日は〇〇をしたよと楽しそうに話してくれます。

一年本当にあっという間でとても中身の濃い充実した時間を過ごさせてもらったなと感じます。アンへ来ているママたちはみんな笑顔で迎えてくれて私も自然と笑顔になります。小さい時はあまり表情がなかった子どもでしたが今では笑顔が増えて本当に嬉しそうに笑います。

涙の日もありましたが、今では笑顔の日々に変わりました。子どもも私も主人も一緒に成長できたように思います。そしてとっても頼りになるママたちとも出会えたこと、わが子に感謝です。

これから別々の道に進むのは寂しい気持ちでいっぱいですが笑顔で新しい園へ進むのを期待しています。この一年は本当にたくさんの思い出がいっぱいで私にとっては宝物です。(アン通所のママ)

ぐるんぱメール編集に参加した感想
西浦順子さんに 聞いてみました！

「ぐるんぱメール14号」の子ども権利条約の記事を担当しました。権利条約が制定されてはいるけれど、普段の子育ての中で「まだ子どもだから」と心配しすぎて子どもの自由を奪ってしまうことが多々あると感じました。子どもが生きているのと「生き生きしている」とは違うなあと。

「子どもの心を考える」というテーマの編集会議の中で、他のママ達が子ども同士のけんかを見守れるとか子どもがイタズラしても面白いと思えるとか子どもに対して余裕があって、びっくりしました。

親もストレスをためずに子育て楽しんでいけたらいいなと思いました。



(佐藤百子)

ぐるんぱメール 配布中！

ママたちで作るママたちのための情報紙ぐるんぱメール。今回のテーマは「子どもの心を考える」でした。ここ数年は人間関係、ストレスといった親の抱える問題をテーマに取り組んできましたが、子どもの気持ちというところに焦点を当てたのは初めてでした。会議では、回を重ねる度にいろいろな角度からの意見が出て思いは深まり、それぞれの「子ども感」も変化していく様子が伺えました。次号に向けての課題や意見も出るほどでした。

私たちの活動の基本理念である『子どもの権利条約』に触れる事ができたこともまた大きな意義があったと思います。子育てに悩むママパパたちが少しでも気持ち良くなるような物を作りたいという編集スタッフ達の思いが詰まっています。

信頼しあえる親たちとの出会いが 子どもの成長を支える！

三月末日、元気いっぱいアン二十五名、ポコ二十一名が修了し、次の集団へ進みました。今年は就園先が決まってく過程の中で、保護者から療育の場の充実や、丁寧に関わってもらえる小さな園の存続などの声が上がりました。三月下旬、お母さんたちの希望をまとめた要望書を和歌山市に提出しています。その要望書には後輩ママたちの負担が、少しでも軽減されればとの思いも込められています。私たち支援者も和歌山市での療育の受け皿や安心して通える場所の充実にむけて保護者ともに声をあげていきたいと思っています。

(親と子の広場・ポコ)
児童発達支援管理責任者 右田有美



～ある日の「ポコ」のエピソードから～

今日のペープサート、お話は「おおきなかぶ」。明日、修了する5人の子どもたちに「役」をしてもらうことにしました。保育士が「おばあさん・まご・いぬ・ねこ・ねずみ」のペープサートを持って子どもたちの元へ。

まずはAちゃん、ジーと見てから「ねずみ」を取ります。

次にBちゃん、「まご」をさっと手にします。

そしたらCちゃん、「まご」を横取り。そうさうさう、Cちゃんも「まご」がお気に入りだった。「まご」を取り合って、すったもんだしているふたりをお母さんたちにお任せして、次は…

あれ？Dちゃん、どうしてムツとしているの？「ねずみ」が欲しかったみたい」とDちゃんママ。納得できず、選ぶのを拒むDちゃんの代わりに、お母さんが「ねこ」を選びます。

席に戻ったCちゃんに、残った2つを見せたら、また「まご」のところへ行っちゃった。

首を長くして待っているEちゃんに先に選んでもらうよ、とEちゃんに差し出したら、さっと「おばあさん」を選びます。欲しかった「おばあさん」が残っていて、ホッとした感じ。そして、残った「いぬ」がCちゃんの手。Cちゃんママ、早くこの場を鎮めたくて、イライラしながらCちゃんに「いぬ」を渡しますが、イヤッと投げられてしまいます。まだまだ取り合いは続きそうでしたが、「お話しはじめます」。

話は進み「いぬ」の出番。「おーい、いぬやーい」と保育士が呼ぶと、

Cちゃん「ハッ！」となって、さっき投げ捨てた「いぬ」を取りに行き、何もなかったかのように「いぬ」役を演じます。次は「ねこ」。Dちゃん、どうなるかな？わざとDちゃんから視線を逸らせて「おーい、ねこやーい」と呼ぶと、笑顔で「ここよ！」。Dちゃんも嬉しそうに「ねこ」役を演じてくれました。他の3人も、満足そうに演技きり、一件落着！気持ちの表出やぶつかり合い、この事態の結末に子どもたちの大きな成長を感じ、お母さんたちも職員も泣き笑いしました。



アン、ポコには、発達に課題のある未就園の親子が通っています。絵本の読み聞かせや手遊び、散歩や公園など元気いっぱい戸外で遊び、帰りの集まりでお話(ペープサート)を見て帰ります。

子どもたちは集団の中で成長・発達します。大人が共感したり、気持ちを汲み取るなど、丁寧に関わることで「やりたい」気持ちが膨らんだり、気持ちの折り合いをつけられるようになります。

子どもの成長はお母さんを笑顔にします。そして、親の心の安定は子どもの成長に繋がります。普段の保育の中で、子どもの成長に目を細め、保護者同士が喜び合っている姿をよく見ます。我が子だけでなく他児も視野に入れ、『みんなを育てる』、そんな温かな空気がここにはあります。

児童発達支援事業 親と子の広場・アン(野崎)
親と子の広場・ポコ(福島)



狐島稲荷神社



狐島の交差点から見えている「狐島稲荷神社」。

バイパスの高架と住宅地、店舗に囲まれた中にこんもりと緑の空間が広がっています。

クスノキの大木をはじめ、たくさんの木に囲まれていて、春は桜がきれいです。鳥もたくさんいました。

ダスキン横の細い道を入っていくと、駐車場にもなっている広い庭があります。そこにはテーブルといすも置いてあって花見にいい場所です。

町中のちょっとしたオアシスになっているので、天気の良い日に家族でお出かけして、お弁当食べるのにもいいかもしれません。夏にはお祭りがあるようですよ。

～私のおススメめ“本”～

小さい「つ」は音の無い文字

五十音村に住む小さい「つ」は、仲間から音の無い「つ」は必要ないと言われます。

ショックを受け、村を出ていき、世の中には月や星や魚など音を持っていなくても、大切なものがいっぱいあると気づいていきます。そして五十音村の住民もまた、ちいさい「つ」を失ってから、初めてそれがどんなに大事な存在だったかと気づかされます。

この本を読んで 30 数年前に娘が「ティッシュのティッってどんな字」と問いかけてきたのを思い出しました。
(上村孝枝)



2018 年 2 月鑑賞ミュージカル「小さい『つ』が消えた日」原作です。

「小さい つ が消えた日」
ステファノ・フォン・ロー 作
三修社



歴史漫画サバイバルシリーズ
「明治時代のサバイバル」
もとじろう マンガ
チーム・ガリレオストーリー
朝日新聞出版(1200 円+税)

きのくに子どもNPO会員募集

- ・正会員（活動をつくる）
- ・活動会員（活動に参加する）
- ・賛助会員（活動を支援する）

〈会費〉・正会員、活動会員とも

1家族900円+500円×家族人数

・賛助会員 1口1000円、3口以上

問い合わせは

事務局 tel.fax.073-452-7710

今僕がはまっている「サバイバルシリーズ」。マンガなので見やすくわかりやすい。「明治時代のサバイバル」は建物とか髪形が今と違っているとわかって新鮮でした。マンガの間にある説明書きがていねいでわかりやすいです。この本を読んで「憲法」が国の法律の基になっていることを初めて知りました。

(佐津充希 小4)